

未来へ受け継ぐ Things to inherit to the future

日本人の忘れもの 知恵会議

⑤

京都市内で狼を暮らしの中心に据え、家族と獲物の命を意識しながら暮らすのが千松信也さんだ。生活のリズム、自然との距離の取り方をどう考えているのだろうか。けもの現れることもあろうという山の

対談

狼師

堂目卓生さん

千松信也さん

千松 兼業農家に生まれ、動物や虫を追い掛けて育ちました。小学生の頃は動物園の飼育員に憧れ、中学・高校では獣医を目指していましたが、大学受験を控えたある日、車にひかれてネコがまた生きていたのを見て見ぬふりをしてしまったことがあり、自分は獣医には向いていないと思いました。

堂目 動物好きなのに、狼を飼育する、つまり動物の命を奪うの獣の駆除に消極的なのも、動物を単に排除するような違和感があるからですか。

千松 自らの手で動物の命を奪い、食うことで私や家族の命につなげることに意味があるのだからです。

堂目 動物を自分の命とつながった存在と見なし、命の循環の中に自分を入れるという感覚

動物の命と正面から向き合う 大切な人間本能の一部見失う

千松さん 堂目さん

幼少時の感覚が戻ってくるような気がして、いつの間にか生活の一部になっていました。鉄砲を使う狼はグルーブが基本。単独で山歩きしたい私には、わな狼が合っていました。仕掛

ます。動物好きなのに命を奪う過程を第3者に委ね、単に肉を食うのは動物たちの命と正面から向き合っていないのでは、という思いをずっと持っています。肉を食べる以上、自分自身で

千松 現代は機械化やネット環境整備、便利になっていて一方、さまざまなことが複雑化してきているように感じます。社会が進歩し、効率が上がったこと



狼から見てくる暮らしについて語り合う千松信也さん(左)と堂目卓生さん(京都市左京区)



飼育している鶏は食欲旺盛だ



山などで用いる道具類

の友人がおられると聞きましただ。千松 ベジタリアンには動物を殺めること自体を嫌う人がいる。豚や鶏等の劣悪な飼育環境への嫌悪感から肉食を否定する人もいます。家畜の飼育には大量の穀物が必要で、食糧問題として肉を敬遠する人もいます。必要なら自然から獲物を頂くという私の姿勢は、ベジタリアンの一部の人が、ごくまれに卵を温める「就巢」という本能に立ち返った行動をする個体があるという話です。文明化によって、人間も

千松 戦後、日本人の山への関わり方が変化の中で、インシヤシカが急激に増えました。高齢化で狩猟人口が減った活動には、特に子もたちを急務になったことによる捕り手が不足した方が正しいかもしれません。昨今、国の政策も変化して若手猟師も徐々に増えています。

千松 現在の子どもたちは学校でも家庭でも逃げ場がなく、一定の価値観のもとで押さえつけられているように見えます。私の子どもたちは、山での生活はもうろく、狼で捕まえたインシヤシカをさばいたりする一方、テレビゲームなど現代的な遊びも含めてさまざまな体験をしています。

千松 現代は機械化やネット環境整備、便利になっていて一方、さまざまなことが複雑化してきているように感じます。社会が進歩し、効率が上がったこと

せんまつ・しんや 1974年兵庫県伊丹市生まれ。京都大文学部卒業。大学在籍中に狩猟免許を取得し、運送会社で働きながら自宅近くの京都市内で伝統的「わな狼」を行う。著書に「ぼくは狼師になった」(新潮文庫)ほか。

どうめ・たくお 1959年生まれ。立命館大経済学部助教授などを経て大阪大総長補佐、社会ソリューションイニシアティブ長。専門は経済学史、経済思想。「アダム・スミス」(中公新書)でサントリー学芸賞。京都市在住。



冬に備えて備蓄しているマキ

前回までの対談シリーズには上のQRコードからアクセスできます。

大阪大学社会学ソリューションイニシアティブのサイトは、このQRコードからアクセスできます。

drawing the future of Tomorrow

私たちは「日本人の忘れもの 知恵会議2019」に参加しています。

- List of participating companies and organizations including Asahi Beer, Sanwa Bank, Daiwa Securities, and various regional businesses.